

教職員の研修を支援する新たなシステムを構築中

県総合教育センター研修企画部

1 導入の背景

情報技術の発達、予測困難な未来、ベテラン層教職員の大量退職と増加する若手教職員の育成等、学校教育は転換期を迎えている。

未来の社会を生きる子供たちの育成のためには、教職員の資質能力の向上が欠かせない。このような情勢のもと、昨年3月に「千葉県・千葉市教員等育成指標」が策定された。

教職員の学びを支援するため、県総合教育センターでは、現在「研修履歴システム」(仮称)を構築している。

2 研修履歴システムの主な機能

これまでの、校内の研修担当者が悉皆研修や希望研修などの受講者を取りまとめWeb上で申し込んでいた。新しいシステムでは、教職員一人一人がIDとパスワードでログインし、Webサイトで研修の申込みをするようになる。

主な機能として、次の四つを予定している。

(1)研修履歴管理

受講した研修や講師を務めた研修が履歴として表示される。また、大学や研究団体等が主催する研修に個人で参加した場合の追加登録が可能で、幅広い研修の履歴が蓄積されていく。



年度	2016(28)	2017(29)	2018(30)	2019(31)	2020
氏名	山田 太郎	山田 太郎	山田 太郎	山田 太郎	山田 太郎
所属	千葉県立中央研修学院	千葉県立中央研修学院	千葉県立中央研修学院	千葉県立中央研修学院	千葉県立中央研修学院
研修名	★フォローアップ研修	★フォローアップ研修	★フォローアップ研修	★フォローアップ研修	★フォローアップ研修
講師	山田 太郎	山田 太郎	山田 太郎	山田 太郎	山田 太郎
評価	◎	◎	◎	◎	◎

研修履歴管理画面のイメージ

(2)キャリア形成

蓄積された研修履歴は、「千葉県・千葉市教員等育成指標」の16の構成要素ごとに可視化され、自らの学びの状況を確認することができる。今後の研修計画を立てたり、キャリア形成に役立てたりすることができる。

(3)eラーニング

知識伝達型の研修の一部は、動画等を視聴して研修を進める教材を用意して効率化を図る。また、効果測定を行い、研修内容が確実に身に付けられるようにする。

(4)研修支援

実施要項や資料等の受取りや研修担当者からの連絡の確認、事前・事後アンケートの回答等をシステム上で行い、研修内容の充実を図る。



研修年度	研修番号	研修名	研修内容	研修時間	研修場所	研修形態	研修費用	研修申込	研修参加	研修評価
2018/7/26	1381	県庁化に応じた教員力アップ研修	県庁化	1日	県庁	研修	無料	○	○	○
2018/8/2	1174	主幹教諭研修	主幹教諭	1日	県庁	研修	無料	○	○	○
2018/8/22	1381	高等学校教員のためのホームルーム経営実践研修	高等学校	1日	県庁	研修	無料	○	○	○

研修受講画面のイメージ

3 運用開始までの見通し

研修履歴システムは、平成32年(2020年)4月からの運用を予定している。それに向けて、来年度は、従来の研修申込みに加え、初任者研修と中堅教諭等資質向上研修で一部機能を試行する。また、県教育委員会のみならず市町村教育委員会主催の研修も、育成指標の趣旨に沿うものは履歴に反映させていく。

学び続ける教職員の育成のため、御理解・御協力をお願いしたい。

学校の先生方へ

～教科・調べ学習に役立つブックリストの紹介～

県立中央図書館

県立図書館では、県民のみなさまに役立つ図書や情報源をさまざまな形で紹介しています。今回は、学校の授業における調べ学習の際に役立つブックリストを作成しましたので紹介します。

1 千葉県の偉人の本

青木昆陽や伊能忠敬など、本県の偉人34名について、その偉人の情報が書かれている図書を、子供向けのものを中心にブックリストにしました。図書は対象別（小学校低学年、小学校中学年、小学校高学年、中学生、一般）に掲載しています。（同対象の中は出版年順）

リストには小中学生から読める資料を選択し、その人物について記載されているページもリストに掲載しています。総合的な学習の時間や社会科などで、千葉県、または地域の偉人について調べる際に活用できます。

2 千葉県の民話一覧

本県に伝わる民話を市町村や地域別に分類した一覧です。児童資料室所蔵の千葉県の民話の図書を中心に、掲載されている民話一つ一つをどこの地域か調べ、約2,000話を市町村や地域別に分類しました。

分類にあたっては、話の中に出てくる、地名や名所旧跡なども参考に分類してあります。合併前の旧市町村がわかる民話については、現在の市町村の中でも旧市町村ごとにまとめてあります。

地域学習の際、その市町村や地域に伝承されている民話を探すのに役立ちます。

3 教科書単元別資料リスト

県内で使用されている小学校1年生から6年生の教科書に掲載されている単元ごとに、調べ学習や並行読書に役立つ図書を紹介しています。

現在、国語科と社会科のブックリストを掲載しています。小学校国語科では「のりものをしょうかいしよう」や「作り方をせつめいしよう」など1年生から6年生までの6単元分、小学校社会科では「わたしたちの国土」「わたしたちの生活と食料生産」など5・6年生の6単元分のブックリストを掲載しています。今後、他教科、他単元のリストも掲載していく予定です。

これらのリストは県立図書館 Web サイト、「学校の先生方へ」の資料案内から見ることができます。

各リストとも、エクセルファイルをダウンロードできますので、必要なリストをご自身で編集してお使いいただくこともできます。

また、書名から県立図書館の蔵書検索や、図書の情報を紹介するページにリンクしていますので、本の内容を確認することもできます。

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/school/index.html>

学校の先生方へ

〔この件に関する問い合わせ先〕

県立中央図書館 児童資料室

TEL 043-222-0116 (代)

「としょ部っ！」はじめました。 ～中高生の読書活動推進のために～

県立中央図書館

県立中央図書館では、中学生・高校生のみなさんに読書に親しんでもらうため、本の情報や図書館のサービスなどをお知らせするためのページ「としょ部っ！～中高生の本だな～」を本図書館 Web サイト上に開設しました。

このページでは、中学生・高校生の読書や学習に役立つ情報や図書委員会の活動の様子を発信しています。

1 県内高校の図書委員会活動

県内の高等学校の図書委員会を訪問し、生徒さんの主体的に活動している様子や図書委員会への熱い思いを取材し、紹介しています。

(1) 県立四街道北高等学校

文化祭では、図書委員会で本の紹介ポスターを作っています。ポスター作成にあたって、各委員の工夫や思いも聞いてきました。実際に作成したポスターの写真も掲載しています。

(2) 県立船橋啓明高等学校

図書委員会が運営を担当し、校内ビブリオバトルを開催しています。参加者の声や運営した際の様子なども掲載してあります。季節の展示や「校長先生の10冊(毎月)」コーナーも紹介しています。

「としょ部っ！」では県内高等学校の図書委員会の活動を今後も紹介していきます。自分の学校や他校で、「図書委員さんが面白い活動をしているよ！」という情報がありましたら、ぜひ県立中央図書館までお知らせください。

2 高校生向け調べ方案内

特定のテーマについて、資料や情報を探したいときの参考になる「調べ方案内(パスファインダー)」を掲載しています。現在、「薬物依存について調べる」「沖縄について調べる」など、6つのテーマについて紹介しています。授業の調べ学習のときなどにご活用ください。

3 図書館の使い方・本の調べ方

中・高生向けの図書館利用案内です。資料貸出券の作り方や本の借り方、読みたい本の探し方など、中高生にも分かりやすく書かれています。

4 関連リンク

県内の図書館が作成している中高生向けサービスのページにリンクしています。中高生向けの本の紹介やイベント案内などを見ることができます。

これらの情報は、県立図書館の Web サイト内、「としょ部っ！～中高生の本だな～」のページでご覧いただけます。

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/yatosyobu/index.html>



〔この件に関する問い合わせ先〕

県立中央図書館 児童資料室

TEL 043-222-0116 (代)

開館 30 周年を迎える千葉県立中央博物館 ～研究者の目線から～

県立中央博物館

平成 31 年 (2019 年) 2 月 7 日に県立中央博物館は開館 30 周年を迎える。筆者自身は平成 5 年 (1993 年) に採用されたが、開館した平成元年 (1989 年) の時点ではまだ大学院生であった。その院生時代の平成 3 年 (1991 年) 12 月に、当館で開催された自然誌シンポジウムに参加するため来館したことがあったのだが、まさに最新の博物館、それも自然誌系に重点を置き、研究に力を入れた博物館ということを目にし、「こんなところで仕事ができたらいいなあ」と思ったことをよく覚えている。まさに希望の職につけたのだから、本当に幸運なことだったと思う。

筆者が就職した当時の中央博物館は自由な雰囲気、充実した研究をすることができた。引越しを終えて数日も経たないうちに、データを取るために顕微鏡に向かっていった。筆者自身の専門は十脚甲殻類の分類学・系統学だが、研究材料は博物館の収蔵資料、あるいは新たに収集された資料も館の収蔵資料として保管される。博物館資料と密着した研究分野では、研究の進展と共に博物館の収蔵資料も充実していく。例えば、新種記載論文の公表の際に学名を担う標本として指定されるホロタイプは、動物学分野では平成 30 年 (2018 年) 11 月の時点で 400 点近くが当館に所蔵されている。

しかし、館の運営が経済状況と無縁であるはずがない。研究に限らず、当館での事業は予算の削減との戦いだった。研究費の減少を補うために、我々研究職員は、科研費や外部の機関による助成金のような競争的資金の獲得も含め、様々な努力をしてきた。

館全体としては、前半の 15 年と比較しても、研究発信力の衰えは否定できないかもしれない。しかし、調査・研究とそれに関連した資料の保管は、博物館の事業の根幹にあると筆者は考えている。そして、独自の調査・研究に基づく展示や普及事業は、豊富な資料と最新の知見を反映したものになり、他にはないユニークなものとなる。これらの事業を来館者獲得につなげていくのはまた別の課題とはなるが、多くの県民の方から応援していただけるような博物館を目指し、次の 10 年、20 年先へと繋いでいきたいと考えている。



30 年の間に様々な分野の貴重な資料が蓄積されてきた。写真は、液浸標本収蔵庫で保管されている甲殻類タイプ標本。博物館には貴重な学術資料を保管する責務がある。常設展示では展示していないが、「収蔵庫探検」などの行事ではこれらの貴重な収蔵資料を実際に見たり触ったりできる。

県立中央博物館では、開館 30 年を記念して、30 周年記念トピックス展「開館 30 年の歩み」を平成 31 年 2 月 2 日 (土) から 5 月 12 日 (日) まで開催し、写真や標本などの資料を使って、中央博物館の 30 年を振り返ります。

企画展示「マリンサイエンスギャラリー 水辺の外来生物 ～房総の海と川から～」

県立中央博物館分館海の博物館

「外来生物」とは、もともとその地域には住んでいなかったのに、人間によって他の地域から持ち込まれた生きもののことです。その中には、私たちの身近な存在になってしまっているものもあれば、日本の在来種の存在に大きな影響を与えたり、人間に害を及ぼしたりすることで問題になっているものもあります。

中央博物館分館海の博物館では、平成31年2月9日（土）～5月6日（月・休）まで企画展示「平成30年度マリンサイエンスギャラリー 水辺の外来生物～房総の海と川から～」を開催します。この展示では、本県の海や川に住む外来生物を取り上げ、その種類や生活、生態系に及ぼす影響などについて紹介します。水辺に住む外来生物について知っていただき、自然環境の現状に関心を持っていただく機会になればと思います。

【展示の概略】

■外来生物とは？

外来生物の定義や、外来生物法などによる外来生物の区分、外来生物が引き起こす問題などについて紹介します。

■房総の海から

本県の海域で見られる外来生物として、チチュウカイミドリガニや二枚貝類などを展示します。

■房総の川から

本県の淡水域で見られる外来生物として、生態系に大きな影響を及ぼす外来魚オオクチバス（ブラックバス）や県内で普通に見られるアメリカザリガニなどを展示します。

■日本の国内からやってきた生きものたち

外来生物には、外国からだけでなく、日本の他の地域から持ち込まれた生きものもあり、「国内外来生物」と呼ばれます。ここでは、淡水魚のタモロコなど、日本の他の地域から本県に持ち込まれた外来生物について紹介します。

■日本から出て行った生きものたち

外来生物には、日本の在来種が他の国に持ち出されて、その国で問題になっているものもあります。ここでは、そのような生きもののうち、海藻のワカメなど県内にも普通に見られる生きものを紹介します。

■外来生物対策の今

国や本県が行っている外来生物への対策について紹介し、私たちには何ができるのかについても考えてみます。



千葉県の水辺に住む外来生物・チチュウカイミドリガニ（上）とオオクチバス（下）